

他の追加意見・質疑等

小野委員より

実績報告書には、「学修」と「修学」の両方の言葉が使用されているが、その使い分けはどうされているのか。

(法人の回答)

使い分けについては、下記のとおり。

「修学」は大学等で学ぶことを指し、例えば「修学支援」は、大学等で学んでいる間の支援のことをいうこととしている。

「学修」は大学で知識を学び身に付けることを指し、例えば「学修時間」は、大学での学び（授業、授業関連の学修、卒論）にかかる時間のことをいうこととしている。

小野委員より

県立大の同窓会について、活動などを教えてください。
(寄付などを集める集団となり得るかなど)

(法人の回答)

熊本県立大学同窓会は「紫苑会(しおんかい)」といい、昭和22年の創立以来(熊本女子大学時代も含め)の卒業生を会員としており、会員数は平成27年7月現在で、16,398人。
(会長: 関幸枝氏)

会員相互の交流や生涯学習機会の提供のほか、在学生が主催する事業の支援や、本学図書館への図書寄贈などの活動を行っている。

また、本法人が平成21年度に創設した「熊本県立大学未来基金」に対し、紫苑会からも、次の通り御寄附をいただいている。

- 平成22年度に、奨学金として当面10年間で2000万円の寄附をとの申し出があり、毎年200万円、平成26年度までに累計1000万円の御寄附をいただいている。本学ではこれを活用して、平成22年度に本学独自の奨学金のひとつとして、「熊本県立大学同窓会紫苑会奨学金」を創設し、学生への給付を行っている。
- これに加え、平成22年度に1000万円、平成24年度に50万円の御寄附をいただいている。

「熊本県立大学未来基金」については、別添「熊本県立大学未来基金規程」参照

元山委員より

業務実績報告書について、文書量削減の工夫を願いたい。同じ記述の繰り返しが散見される。

(法人の回答)

業務実績報告書は、知事が定めた中期目標を達成するための中期計画に基づき策定した年度計画ごとに、その年度計画を実施したかどうかという視点で作成しているものである。

例えば、太陽光発電システム導入事業は、中期計画(57)の経費抑制の取組と、中期計画(62)の大地震などの不測の事態への備えの取組という複数の意味を持っており、両方の計画の欄に記述しているもので、そのように記述が重複すること自体はやむを得ないとする。

なお、できるだけ簡潔にわかりやすく記載するように引き続き努めたい。